

第 4 号

発行所

大阪市史跡 龍溪禪師墓所

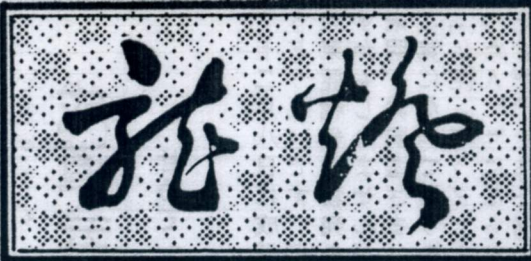
靈龜山 九 島 禅 院

〒550 大阪市西区本田 3丁目4-18

☎06-582-5772

発行人

住 職 奥 田 啓 知 (智證)



あきらめ説く仏教?!

如実知見 (眞実をありのまま見る)

長野県で会社員の夫が、老人性痴呆症のアルツハイマー病になった妻との離婚を求めた訴訟の判決がありました。高齢化が進み、老人性痴呆症が他人事(ひとごと)でなくなった今日、考えさせられる判決でした。

判決では「アルツハイマー病のため夫婦間の協力義務を全く果たせず、婚姻関係の破たんは明らか」として離婚を認めました。

判決によると、二人は昭和四十六年に結婚。当時、夫は二十三歳、妻は四十歳であった。結婚して十九年は夢と過ぎ、八年前から妻に異変がおこり、夫の名前すら判らなくなった。病院で検査したところ、原因不明の脳の萎縮で起こるアルツハイマー病と診断され、さらに悪いことに、脳の中樞が侵され身体

自由が利かなくなるパーキンソン病も併発していた。寝たきり状態の妻の世話や家事の負担はすべて夫にかかり、四年前には妻は特別養護老人ホームに入所した。心の交流もないまま夫は介護に疲れ果て、苦しんだあげく離婚を決意した。離婚後もホームに面会に行くことや経済的負担を継続するという。

四十二歳の夫の人生の前途を思い、裁判所が夫の訴えを認めたいのはいたしかたのないことだと思えます。世間には「冷たい」という人もいるかもしれないが、誰も彼を責めることはできません。いうまでもなく、医者でもない彼が、妻の病気を治せるわけがないのです。自分の愛の力を信じて、妻と添い遂げることは容易なことではないのです。

生・老・病・死をはじめとして、私たち人間の力の及ばないことはあるのです。そんな人間が、他人を救えるはずもないし他人を救ってやろうと考えること自体が間違いないのかも知れません。それを救って下さるのが仏さまだけなのです。

私たちは、人間の無力さを自覚し、絶望のなかで仏さまにお祈りすることしかできることはないのです。敗北主義かも知れませんが、それが眞実なのです。そのつらい眞実をはっきりと見極めることが、ほかならぬ仏教の教えなのです。そして、ひたすら仏さまに祈るとき、いつか私たちの目は澄んだ清らかなものとなるのです。



成道会と臘八接心

せめて一刻でも坐して自己をみつめましょう

十二月八日は成道会（じょうどうえ）です。年輩の方は大東亜戦争の勃発を思い起こすかも知れませんが、この日未明、お釈迦さまは、明星をご覧になって悟りを開かれ、「仏陀（ブツダ）―真理を悟った人―」になられました。そこで、それを祝しての行事が成道会なのです。禅寺では十二月一日から八日の早朝まで、「臘八接心（ろうはつせしん）―と称して、昼夜ぶっ通しの坐禅がなされるのです。



背まじと仰ほせ 若者よ

黄檗山萬福寺でも、修行僧を中心に信者をまじえて熱心に行じられます。この一週間床はひかずに深夜から三時すぎまで坐睡できるだけです。底冷えのする堂内は、一種の緊張感が漂い、警策（きょうさく）の打つ音だけが響きわたります。坐禅は一回四十五分から五十分ぐらいです。これを経行（きんぎん）という行を間にいれて何回も繰り返します。この修行が一週間続き、七日目の夜中、大開静（だいかいじやう）―一週間の坐禅修行の終わりを告げる合図―が鳴り渡ってようやく接心は終わりとなるのです。毎日慌ただしく過ぎ去る現代、周知のごとく、私たちの住む世界環境は地球的規模で汚染され、かけがえのない生命が間接直接に脅かされています。こうした時こそ、せめて一刻でもじっくりと座して自己を見つめ直してはいかがでしょうか。

○大本山萬福寺開山忌団体参拝のご案内



檀信徒の皆さまへ

○墓地管理費ご納付について

当院墓地管理費規定に基づき、墓地管理費のご納付をお願いいたします。平成二年度分未納の方は、年末の墓参の折り又は郵便為替（口座番号 大阪31111780番 名称 九島院）でも結構です。宜しくお願いいたします。

毎年四月三日には、大本山黄檗山萬福寺にて開山忌が厳修されます。開山忌とは、宗祖が祀られている開山堂（他宗でいう大師堂、御影堂）での、黄檗宗開山宗祖隠元禪師の祥当忌です。来年も例年の如く四月三日（水）午前十時半より厳修され、齋会（普茶料理）のあと散会となります。過去二回程（昭和三十九年）団体参拝を実施した記録がありますが、久々に来年実施したいと考えています。詳細は次号で発表いたしますが、京阪電車黄檗駅に現地集合・解散の予定です。



訃 報

当院の前責任役員（総代）尾崎一次氏がさる十月廿七日に亡くなられ、同廿九日当院本堂で葬儀告別式が執行されました。

氏は昭和五十四年五月三日就任され、昨年十月五日まで十年間、当院の為にお力添えを賜りました。ここに謹んで故人のご冥福をお祈り致します。

○息災延命観音像勸請建立と並びに禅苑整備事業について

今夏の水燈会（施餓鬼法要）席上でお話致しましたが、平成四年十一月に大本山萬福寺で厳修されます「宗祖隠元禅師御生誕慶讃大法要」にあわせ、当院でも宗祖の鴻恩に報い、同時に寺門興隆の一環

として、息災延命観音像を勸請建立し、本堂前を整地し禅苑を整備することになりました。（図参照）三月廿三日の春彼岸法要に入佛開眼供養ができますように、来年正月早々工事に掛かります。

現在本堂前にあります無縁塚二基は改葬移転し境内地と墓地とを区切るように雛段状に墓地にむかつて積み直し、旧無縁塚及び新規建碑され抜魂した墓碑を中心に地下に埋設し、場所を空けます。同処

に観音像を建立し、地下に埋設した墓碑を慰霊します。何分、狭い境内地ですので、すべての墓碑を雛段に安置することができませんので、不悪ご了承下さい。

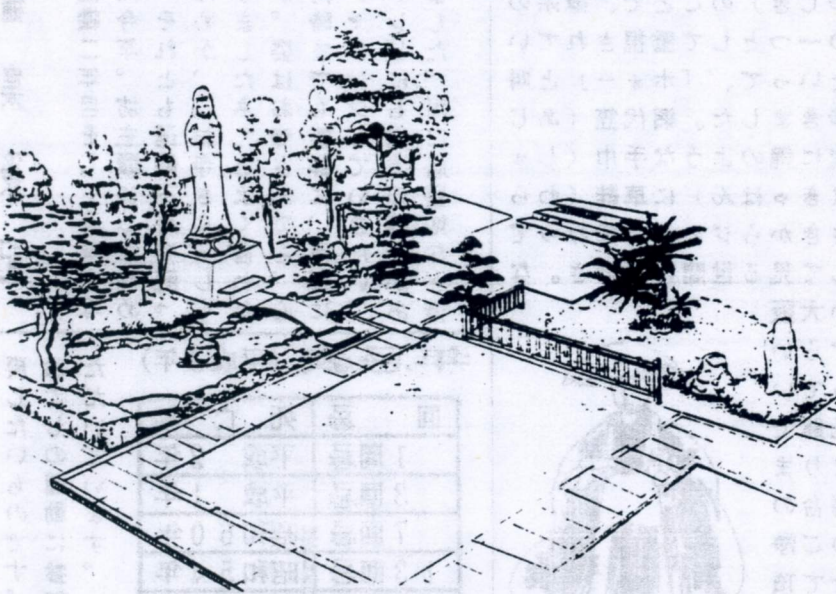
なんでも質問箱

（問い）中陰が三ヶ月にわたるとよくないか

（答え）仏教では、亡くなった日から次の世に生を受けるまでの期間を「中陰（ちゅういん）」

（ちゅういん）- 正しいは「中有」といいます。七日ごとだんだんと縁が深まり遅くとも七日忌、つまり四十九日には来世の行き着く先が完全に定まるとされています。そこで、故人の来世がよかれと願い、七日ごとに追善回向を重ねるのです。昔は、喪中の家やその家族は死者のケガレを身につけていると考えられていました。中陰が三ヶ月にわたるとよくないか

三月（みつき）身つきで縁起が悪いという、ゴロあわせのようなもので、仏教的根拠はありません。亡くなった日がその月の十二日か十三日以後であれば、間違いなく三ヶ月にわたります。三月ごしが悪いのなら、四十九日忌（中陰忌）そのものの行事が成り立たなくなるのではありませんか。まったく気にする必要はありません。ともかく、中陰の期間中は生活を慎み、故人の冥福を念ずることを心掛け、死はいつと推しはかることのできないものであり、今日のいのちがどれほど尊いものかということを、じっくり味わって下さい。



新 藤石材店・小西造園に施工を依頼しています。

小西造園（伊丹市）は万博の日本庭園を造園した業者です。

● 托鉢 体験 ● ○ ○

「主婦だまし」という言葉があるそうです。晩秋から冬にかわるこの時期、ある日突然寒くなって主婦が慌てて暖房器具をだしたのに、翌日は暖かくて、「なんだぁ？」と拍子ぬけになるような寒波到来を云うのだそうです。

そんな日が11月10日(土)でした。翌日の『いのちを見つめる心』(黄檗宗青年僧の会主催)を控えて、私ども青年僧20人は寒風吹くなか、同イベントの宣伝と併せて、『中国残留婦人700人の帰国支援』運動に協賛し、勸募托鉢を実施しました。

新聞やテレビのニュースでも報道されましたが、終戦当時13才以上の中国に残留した日本女性で、現在約700人居られると推定されています。この年齢以下で終戦を迎えた残留孤児と違い、墓参や肉親探しなどで日本へ帰国しても、滞在費が日本政府から支給されない人達です。残留孤児の人達以上に高齢で一刻も猶予のない方々です。

托鉢とは乞食(こつじき)のことで、禅宗の専門道場では、修行の一つとして重視されています。この日は連鉢とって、「ホォー」と叫びながら列をなして歩きました。網代笠(あじろ)をかぶり、雲水衣に縄のような手巾(しゅきん)を締め、脚絆(きゃはん)に草鞋(わらじ)ばき、寒さが足さきからジーンと伝わってきます。網代笠を通して見る世間の新鮮さ。なにしろ金銭感覚の鋭い大阪のこと、二、三千元ぐらいにしかならないと思っていたところ、二時間の托鉢で4万円強の募財が集まりました。当院本堂前の燭台の賽銭入れから五千円のご浄財も合わせて募金させていただきました。

「寒いのにご苦労さんなこっちゃん」との声を尻目に、元町の鉄眼寺に帰山しました。



○観音写経―納経のおすすめ
息災延命観音像の基壇には納経できるようにしました。初めての方にも簡易にできるお写経の用紙と手引を作りましたので、これを機縁にお写経され、皆様のご先祖さま、亡きみたまへの追善供養に、又は皆様ご家族の健康や除災祈願など、あるいはお心をしっかりと静める意味でも、是

非ご奉納されることをお勧めします。観音像勸請建立という滅多に出会えない機会です。ご親戚、ご友人にも是非にお勧め下さい。写経用紙が不足の場合は、お寺までご連絡下さい。さればお届けします。



編集 集 後 記
○住職二年目そして専業となつた今年。坊主頭にしたためか、それとも運動不足で肥ったためか、「お寺さんらしくなりましたネ」とよく言われます。姿はお寺さんでも、心は何時まで新鮮に、何事もチャレンジしていきたい。○テレビにも出演の機会がありました。川口居留地など当

年忌表(平成3年)

| 回 忌 | 死 亡 年 |
|------|-------|
| 1周忌 | 平成 2年 |
| 3回忌 | 平成 1年 |
| 7回忌 | 昭和60年 |
| 13回忌 | 昭和54年 |
| 17回忌 | 昭和50年 |
| 25回忌 | 昭和42年 |
| 33回忌 | 昭和34年 |
| 50回忌 | 昭和17年 |

地区も昔のような繁栄を呼び戻したいものです。目下、町おこしの運動に参加させていただきます。ただいています。